豊中市ふるさと納税返礼品の提案
—授産施設による多機能ケース制作の企画とデザイン—

木村 綾乃　　野村 希帆　　小山 真穂
［指導教員：武庫川女子大学教授　黒田 智子］

キーワード：ふるさと納税，多機能ケース，授産施設，パッケージデザイン

1. 研究の背景と目的

豊中市は，ふるさと納税に関心が高まっている機会を活用し，「ふるさと納税」の趣旨に反するような豪華な特典（例；カタログギフトや寄付金額による区分など）により寄付を募るのではなく，“豊中らしさ”など，市民及び市民外の居住者に豊中市の魅力を知ってもらえるような返礼品のデザイン・企画を実施することとなった。

2016 年度に豊中市から武庫川女子大学黒田研究室にふるさと納税返礼品の提案を目的とする産学官連携の依頼があった。昨年度はブックカバーを制作しており，昨年に続く依頼を受け，今年度は，革を使用した多機能ケースを提案することとなった。

2. ふるさと納税

2-1 ふるさと納税とは

「ふるさと納税」とは，ふるさとを離れて生活されている方が，ふるさとの県や市町村に寄付をすると，住民税などが軽減される制度である。

2-2 豊中市のふるさと納税の位置づけ

自治体間の返礼品競争との差別化を図る，ふるさと納税返礼品によって寄付者への感謝を表すと共に豊中市の魅力を発信する。

3. 豊中市におけるふるさと納税の状況

現在，返礼品の魅力からふるさと納税の対象とする自治体を決める傾向がある。しかしながら，豊中市は，返礼品に関係なくふるさと納税の納付者が多い市であるということが分かる。また豊中市の納税者は，豊中市在住の高齢者が大半を占めていることから，住んでよかったという経験が大きな要因であると考えられる。

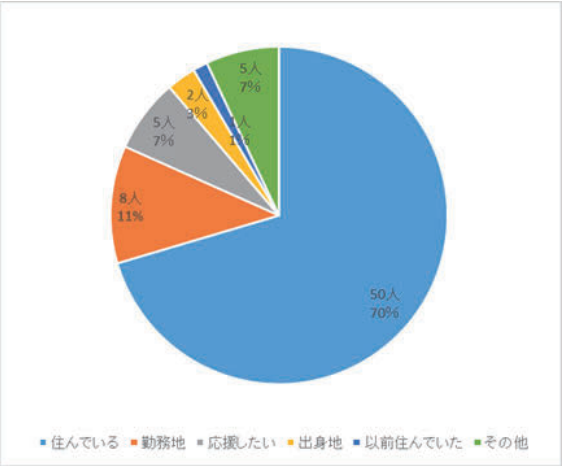

図 1　豊中市ふるさと納税の寄付の状況

4. 多機能ケースのデザインについて

4-1 コンセプト

6 ヶ所の授産施設[1)]を見学した結果，私たちの考える返礼品にふさわしい姿勢・技術を持っていると考えられるゆずりは作業所に作業を依頼することにした。

寄附していただいた方に感謝の意を表し，喜んで頂けるものを作成するために豊中市から提示された条件は以下の通りである。

① 地域資源（授産製品[2)]を含む）の活用
② 年齢を問わず，日常生活で使えるもの
③ 価格は 2000 円以内
④ “豊中市らしさ”を感じていただける製品
⑤ 返礼品を作る経験が，授産施設の活性化と利用者の自立に繋がること

この結果，ペンケース，眼鏡ケース，印鑑入れ等として使うことができる多機能ケースを作成することになった。

4-2 プロセス

上記の 5 つの条件のもと，各自参考にできる既製品を参考品として持ち寄った。各自 1 週間使用し，課題点を挙げると共に，授産施設で制作可能かどうかを考慮した上で，既製品に改良を加えた試作品を作成し，豊中市へ提案を行った。豊中市からのフィードバックを踏まえ，4 案のいい点を組み合わせ，2 色の革を使った『多機能ケース』に決定した。最初は直線の多い型紙を作成したが，使いやすさ，視覚的な魅力をもった，カーブのある型紙へと変化させた（図 2, 3）。厚みは大型紙や小型紙を両方とも同じ厚みにするよりも，大型紙を薄く（1.5 ㎜），小型紙を厚く（1.8 ㎜）する方が，開閉部分が浮かずしっかり固定できた。

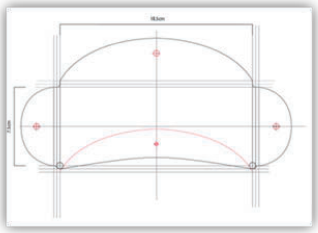

図 2　大型紙

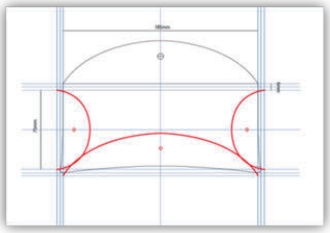

図 3　小型紙

大型紙によるパーツに☼と∞の挿入。これはロゴマークとの統一感を持たせ，そのコンセプトをより伝わるように考えた為である。ロゴは市民のネットワークがふるさと納税を通じ繋がっていくことを表現している。授産施設を「☼」（輝く存在）と捉え，そのネットワーク「…」が「∞」（無限大）の可能性をとの願いを返礼品に込めている（図 4）。

図 4　多機能ケース（裏）デザイン

図 5　多機能ケース開封時

図 6　取り出し口（横）

図 7　取り出し口（上）

図 8　制作した多機能ケース（表）

図 9　制作した多機能ケース（裏）

5. パッケージのデザインについて

5-1 コンセプト

製品を保護するものを作成すること。条件設定は以下。

① 多機能ケースの 4 色展開が判断できるか
② 商品をさらに良く見せ，豊中市にふるさと納税をしてよかったと思ってもらう
③ 感謝の言葉を提示するため
④ 価格は 15～20 円以内
⑤ 授産施設内の技術で製作できること

5-2 プロセス

まず，各々が良いと思ったパッケージデザインの資料を持ち寄り，それらを，［あな・箱・ラベル・形状・折る］の 5 つの視点から分類。各自で試作品を作成し，それを持ち寄り検討した。その結果，多機能ケースの 4 色展開の色を魅力的に見せるデザインで，予算内におさまり，その上作業工程が比較的簡単な，トレーシングペーパーを縫い合わせて，ラベルを縫い付けたパッケージになった。

図 10　完成したパッケージを用いた状態

次いで，説明書を製品の中に入れることになった。記載するのは［感謝の気持ち，ロゴマークの説明，ペンケースの構図と組み立て方，用途，メッセージ］で，受け取った方にパッケージを開く過程でペンケースのコンセプトについて理解を深めていただく為である（図 11，12）。

図 11　説明書（表）

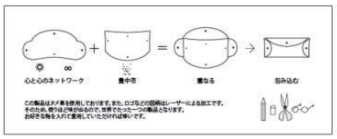

図 12　説明書（裏）

6. アンケート結果

今回の返礼品において満足度のアンケートを行った結果，返礼品に関わらず寄付する方が多いことから，返礼品を求めない声もあった。一方，半数近くは満足していると答え，一部の方には本来のふるさと納税の意義を守り，感謝の気持ちを送ることができたと考える。また，授産施設へのヒアリング調査を行ったところ，この企画をきっかけに利用者の方のものづくりへの良い刺激になったと回答を頂けた。利用者の方の自立に一歩でも近づくきっかけになったと考える。

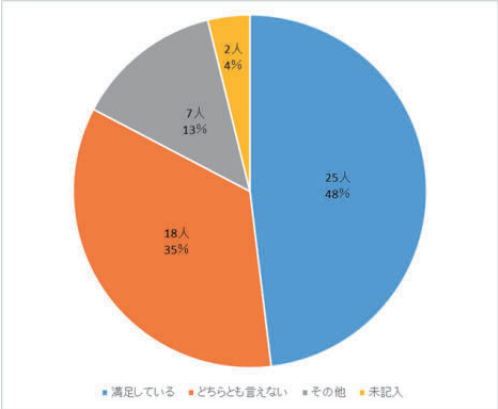

図 13　納付者アンケート　返礼品の満足度について

注釈

1) 身体障害者や知的障害者，並びに家庭の事情で就業や技能取得が困難な者に対し就労の場や技能取得を手助けする福祉施設
2) 授産施設で生産されたモノ